



図書館だより

いなべ総合学園高校図書館



INASOU_HS_LIB

来年度の教科書を見るチャンス！

6月11日（木）から6月17日（水）まで教科書展示を行います。
来年度使用する教科書を見ることができます。
科目登録で迷ったときは、ぜひ手に取ってください。



昨年度の様子

読書感想文の課題図書<高校生>

今年の課題図書が発表されました！

青春バスケット小説！



『スウィッシュ!』藤ノ木優/著,
徳間書店

先住民に思いをはせる



『ノアラム・ガーデンズの家』ペ
ネロピ・ライヴリー/著,
ゴプリン書房

戦争って本当に終わったの？



『平和のうぶごえ[「原爆の子」
として生きた80年]』早志百合子/著,毎日新聞出版

読書感想文に応募したい人は、9月1日（火）までに図書館へ提出してください。
過去の受賞作をまとめた冊子や、思ったことを言葉にすることを助けてくれる図書があります。
興味がある人は気軽に図書館までお越しください。

本の紹介

『さみしい夜にはペンを持って』古賀史健/著, ポプラ社, 2023.7



『嫌われる勇氣』古賀史健による、13歳から読める「自分との人間関係」を構築できる本。一生自分の頭で考え続けたい人へ。

主人公は中学生、いじめのメカニズムが書かれていると思いました。いじめられている自分自身に自信がなかったり、そんな自分が好きになれなかったり、でもそれを克服していくのです。読んでみると共感できることがいっぱいありました。皆さんもご一読を。 （堀木先生）

あたらしい図書

本を読めなくなった人たち[コスパとテキストメディアをめぐる現在形] <中公新書ラクレ>	稲田/豊史/著	中央公論新社
中高生のための新書のすすめ <岩波ジュニア新書>	岩波ジュニア新書編集部/編	岩波書店
世界のエリートが学んでいる教養書必読 100冊を1冊にまとめてみた	永井/孝尚/著	KADOKAWA
資本主義を半分捨てる <ちくまプリマー新書>	青木/真兵/著	筑摩書房
和食のミライ[食文化と地域を守る] <岩波ジュニア新書>	佐藤/洋一郎/著	岩波書店
未来の夜空はどう見える?[銀河が教えてくれること] <岩波ジュニア新書>	谷口/義明/著	岩波書店
もしもハチがいなくなったら? <岩波ジュニア新書>	横井/智之/著	岩波書店
世界一やさしい脳科学入門[やる気が出ない理由は脳に聞いてください] <14歳の世渡り術>	毛内/拓/著	河出書房新社
記憶と脳の探究 <岩波ジュニア新書>	櫻井/芳雄/著	岩波書店
これからの建築入門[<自分でつくる>を取り戻せ] <岩波ジュニア新書>	松村/秀一/著	岩波書店
文豪ストレイドッグス (28) <角川コミックス・エース>	朝霧/カフカ/原作	KADOKAWA
アルスラーン戦記 (24) <講談社コミックス週刊少年マガジン>	荒川/弘/漫画	講談社
The JOJOLands [Part9] (volume8) <ジャンプコミックス>	荒木/飛呂彦/著	集英社
ただいま!保育士でこ先生 <KITORA>	でこぼん吾郎/著	KADOKAWA
ボードゲームづくり入門 <岩波ジュニアスタートブックス>	高橋/晋平/著	岩波書店

ハングルの世界[文字から韓国を知る] <岩波ジュニア新書>	水野/俊平/著	岩波書店
陰の実力者になりたくて! (07)	逢沢/大介/著	KADOKAWA
わたしの幸せな結婚 (10) <富士見L文庫>	顎木/あくみ/著	KADOKAWA
ビバリウム[Adoと私]	小松/成美/著	KADOKAWA
学園の魔王様と村人Aの事件簿 <角川文庫>	織守/きょうや/著	KADOKAWA
我々は、みな孤独である <ハルキ文庫>	貴志/祐介/著	角川春樹事務所
お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件 (12) <GA文庫>	佐伯さん/著	SBクリエイティブ
神のダイスを見上げて <光文社文庫>	知念/実希人/著	光文社
ほどなく、お別れです <小学館文庫>	長月/天音/著	小学館
Re:ゼロから始める異世界生活 (44) <MF文庫J>	長月/達平/著	KADOKAWA
三千円の使いかた <中公文庫>	原田/ひ香/著	中央公論新社
盤上の夜 <創元SF文庫>	宮内/悠介/著	東京創元社
奇妙でフシギな話ばかり	ブルース・コウヴイル/作	岩波書店

本の紹介

『^{ルウ}路』 <文春文庫> 吉田修一/著,文藝春秋.2023.6



台湾高鐵（台湾新幹線）の建設という巨大プロジェクトを軸に、日本人と台湾人が織りなす心の交流を描いた群像劇。2020年NHKでドラマ化もされました。読めば台湾のリアルな雰囲気伝わってきて、行ってみたいくなること間違いなし！台湾好きお勧めの1冊です。

筆者は昨年大ヒットした「国宝」の吉田修一というのも注目すべき点ですね。
(野呂先生)